

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。

さっぽろ
市議団ニュース

<第3回定例会>

2016年10月18日

No. 163

日本共産党札幌市議団 事務局

tel 211-3221 / fax 218-5124

“入学準備金を入学前に”切実な願いに応えよ—— 「必要なお金は入学前が好ましい」早急に検討する

平岡大介議員が質問

日本共産党の平岡大介議員は14日、決算特別委員会で就学援助の入学準備金の支給時期（現在、6月末から7月）について質問しました。

平岡議員は、入学準備金の入学前の支給を求めたわが党の代表質問に対し、教育長が「文科省の通知もあり十分配慮すべきもの」とする一方、「支給後に転出した場合の返還手続きが課題」とのべたとして、「小学校で就学援助を受けていて中学校に上がる際に市外に転出するのは何件、何パーセントか」とたどしました。

引地学校教育部長は、「受給者2,363人のうち中学校で申請がなかったのは340人、14%で、家計が好転、または生活保護への移行も含まれると推測している」とのべました。

平岡議員は、「他市町村への転出は実質1割程度であり、転出する際には返還してもらう旨事前に説明しておくことで解決できるのではないか」「福岡市など入学前に支給する自治体が増えおり、文科省も『必要な時期に速やかに支給するよう』に通知している」「支給額は小中合わせて1億円程度であり、補正を組めば来年度からでも可能」とたどすと、引地部長は、「返還を求める旨を事前に通知すれば減らせる」「速やかな支給については十分配慮する必要がある」としつつ、「来年度開催する就学援助審議会で検討していただく」とのべました。

平岡議員が、「子どもにはせめて世間並みのものをと親はやりくりしている。その切実な願いに応えるべき」と改めて答弁を求めると、町田副市長は「ランドセルなど必要なお金は入学前に支給するのが好ましい。どのように対応できるか早急に検討していきたい」と答えました。

学校の定期健診——精密検査未受診の原因に貧困も、無料低額診療など丁寧な情報提供を

池田由美議員が質問

日本共産党の池田由美議員は14日、決算特別委員会で学校の定期健康診断について質問しました。

池田議員は、「昨年定期健診で、尿検査では精密検査が必要と判定された小中学校の児童580人のうち61人が検査を受けず、心臓検査では同じく小中高の児童生徒406人のうち107人が検査を受けていない」として、「必要な検査を受けていない児童生徒がいることをどう受け止めているのか、どのように受診をすすめているのか」とたどしました。

本居学校施設担当部長は、「好ましい状況ではなく文書で通知しており、特に精密検査が必要な心臓健診や血管健診については、改めて通知して受診を促している」とのべました。

池田議員は、「歯科健診では、虫歯の未処置の割合が本市は政令市のなかで幼稚園が34.17%とワースト1、小中学校26.75%でワースト3、高校26.28%でワースト3だ」と指摘。貧困化のなか子どもの歯がボロボロになっているという歯科医の実態報告を紹介し、「必要な治療を受けられていない背景に、貧困化の問題があるのではないか」「無料低額診療制度の周知をどのようにすすめているのか」とたどしました。

本居部長は、無料低額診療制度について「全市の養護教諭を対象とした研修会で周知しており、本市の学校病治療（就学援助の医療費援助）の助成なども合わせて保護者に知らせていきたい」とのべました。